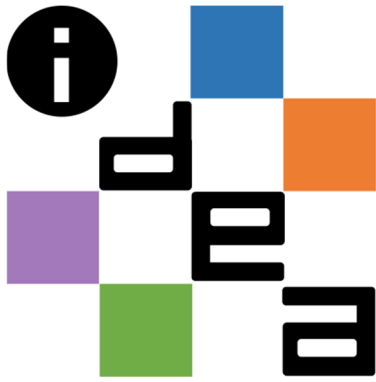


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2018

12月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター

薄衣城本丸跡

- 1 | 二言三言 地域の達人をご紹介！‘釣り名人’伊藤稔さん
- 3 | 団体紹介 永井地区郷土芸能伝承保存会（花泉）
- 4 | 地域紹介 藤沢第10区自治会（藤沢）
- 5 | 企業紹介 佐藤工夢店株式会社（大東）
- 6 | センターの〇〇 センターの自由研究 市内で一番大きな巨石は！？

地域の達人をご紹介します！‘釣り名人’伊藤稔さん

対談者 伊藤稔さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

‘釣り名人’で全国的に有名な伊藤稔さんに、釣りを始めたきっかけや「名人」と呼ばれるようになるまでのいきさつ、フリーランスで行っているお仕事や地域での活動などについてお話を伺いました。

35歳でアユ釣りの日本一に！

【小野寺】「釣り名人が一関にいる」という話は聞いておりましたが、伊藤さんとやっとお会いすることができました。伊藤さんは、釣りはいつ頃から始められたのですか？

【伊藤】僕が釣りを始めたのは27歳の時ですね。最初は東京で美術関係の仕事をしていたのですが、27歳の時に実家を継ぐために東山町に戻ってきたんです。そこで地元の会社に勤めながら趣味で釣りを始めました。当時は釣り道具屋さんが流行っていたこともあり、ゆくゆくは釣り道具屋さんの経営と、釣りの本のライターになりたいくて。そうすれば飯が食えると思っていました。まあ、好きな道で生きられたら幸せですからね。でも実際は博打のようなものですし、両親にもかなり反対されましたね。

【小野寺】でも実際に本を発売されていますし釣りの名人でいらっしゃる。有言実行ですよ。

【伊藤】結果的にはそう言えるかもしれませんが、当時は僕のような人間は周りから道楽者としてしか思われなかったんです。後ろ指を差されて「あそこのバカ息子は…」って。それでも今に何とかしてやろうと思って、27歳から釣りを勉強し始めました。そのうちに、日本のアユ釣りのトップクラスはどれくらいなのだろうと挑戦欲が湧いてきて、アユ釣りが盛んだった関西へ行き、名人達にあちこち弟子入りして回り、多くの技術を学びました。名人達はみんな寝る間も惜しんで熱心に朝から晩まで釣りをするので、それを見たら「たかが釣りといっても、遊びじゃないな。すごい世界なんだ」と思いましたよ。

【小野寺】そうやって技を磨いていったんですね。

【伊藤】そんな中、僕が30歳ごろからアユ釣りの全

国大会が始まりました。そんな中、僕が30歳ごろからアユ釣りの全国大会が始まりました。その中の最高峰が全日本アユ釣り王座決定戦でしたが、35歳の時、予選を運よく勝ち抜き、初出場で優勝できました。

【小野寺】釣りを始めたのが27歳で、王座決定戦で優勝したのが35歳ですから、わずか7年～8年で日本一に上り詰めたんですね。

【伊藤】きっと運が良かったんでしょうね。その後も50歳になるまではずっとトップクラスにいました。

【小野寺】15年間もトップクラスを維持されたのはすごいですね。

【伊藤】同じく35歳の時に、僕は「究極のヤマメ釣り」という本を出版したんですが、その本がベストセラーになりました。なぜ売れたのかというと、その本は今までの渓流釣りの概念を180度変えてしまったからなんです。というのも、昔、渓流釣りは勘の世界でした。「だいたいこの辺で魚が餌に食いつくだろう」とかね。釣りの解説書もその程度のものでした。それを初めて理論的に解明して解説した本を出したのです。僕が「渓流のカリスマ」と呼ばれ始めたのはその頃からですね。

【小野寺】それはすごいですね。



伊藤さんが出版した本の一部です

【伊藤】その翌年に「ダイワ精工」という、当時の日本の釣具のトップクラスのメーカーから「うちの仕事を手伝ってくれ」とお話をいただき、60歳の定年まで開発や宣伝の仕事を手伝いました。65歳からは「株

式会社シマノ」という釣具メーカーの仕事を手伝っています。

【小野寺】それは入社ということでしょうか？

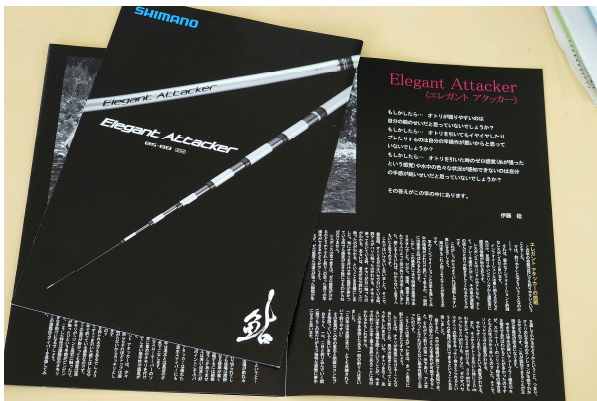
【伊藤】入社ではなく、毎年更新のアドバイザーみたいなものですね。

【小野寺】普段は一関にいますか？

【伊藤】はい。呼ばれれば会社に行きますが、多いのは宅急便でのやりとりですね。竿を作る時はパーツを宅急便で送ってもらい、試し釣りを何度もして改善点を指示します。1本の竿をつくるのには2年（2シーズン）かけます。

【小野寺】そうして昨年できあがったのが、伊藤さんモデルの釣り竿「エレガントアタッカー」なんですね。

【伊藤】この竿はシマノに入って初めて作ったものだったから、気合を入れて作りました。値段は高めですが、増産を3回もするほど売れました。おもしろいことに全国で一番この竿を売り上げたのは一関市内の釣り具屋さんなんです。一関市は東北でも釣りが盛んな地域で釣りキチも多いんですよ。



エレガントアタッカーのカタログ
竿もカタログも伊藤さんが作りました

主流年代の変化と若者の釣り離れ

【小野寺】釣りに関して最近何か変わってきたことはありますか？

【伊藤】残念ながらアユ釣りや溪流釣りの釣り人が、減ってきていることでしょうか。この2つの釣りは釣りの中でも難しく、一人前になるには2年も3年もかかるので、なかなか始める人が少ないんです。若い人の中ではバスフィッシングなどのルアーが流行っていますよね。道具も安いし手頃にできますから。しかし、アユ釣りや溪流釣りは面倒な「仕掛け作り」から勉強しなければなりません。だから若い人に嫌われるのかもしれない。

【小野寺】この「仕掛け作り」が難しいという話は聞きます。でもそれが醍醐味でもあるんですよ。

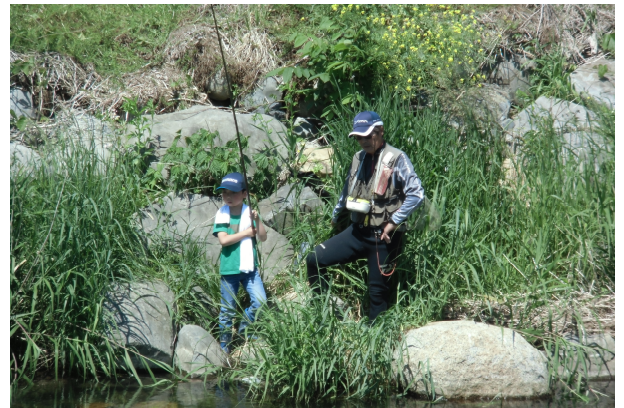
【伊藤】ええ。昔はお互いに作った仕掛けを見比べたり、出来を競ったりしたものです。つい先日、なぜ若者の釣り離れが起きているのかを30代の弟子に聞いて

たら、「考え方があなたと逆だから無理なんです」と言われました。要は、凝って研究したり、日本を制覇しようとか、今までにない物を作りたいとか、そんな向上心旺盛な人は少ないようです。釣りに限った話ではないですが、若い人達には高みを目指して果敢に挑戦してもらいたいものです。

伊藤さんによる釣り講座

【小野寺】伊藤さんは東山で釣り講座を行っています。どのように行っているのですか？

【伊藤】僕が講師をする講座のほとんどは室内です。講釈で、川での実技演習は過去1回しかしていません。実技だと参加人数が集まらないんです。講釈だと70人くらい参加していただきますが、秋田や青森、盛岡、宮古、仙台など遠方から来る方も多いですね。



川で行った実技演習の様子

【小野寺】意外と地元からの参加は少ないんですね…もったいない。

【伊藤】講座では初心者から上級者まで、ある程度全ての方をお相手に話すわけですが、なかなか全ての人に満足してもらうのは難しいですね。レベルを上げると中学生や高校生など若い方はわからないでしょうし、下げればベテランから不満がでます。

【小野寺】中学生・高校生も参加するんですね！それは頼もしいです。

【伊藤】子どもたちは講釈だけじゃわかりにくいだろうと思って、「空いている日があれば、一日川で講習会するから来ない？」と誘うんですが、遠慮してか誰も来てくれません。溪流釣りなら、初めての人でも一日に10匹~20匹は釣らせる自信があるのですが。

【小野寺】若者の育成のためにもぜひ伊藤さんから釣りを学ぶ場をもっと作っていただければ良いですね。

【伊藤】努力してみましよう。

伊藤稔さん

住所：一関市東山町在住

団体 紹介



今年度の講座生のみなさん
(永井市民センターまつりでの集合写真)

～基本情報～

- ◆会長：阿部 良 さん
- ◆住所：〒029-3206
一関市花泉町永井字新田 150-1
- 電話：0191-84-2473

「つないでいく」ために ～地域芸能伝承の新たなカタチ～

小学生や若者世代が中心！講座形式の活動

午後7時半、永井市民センターのホールに続々と子どもや若いママたちが集まってきました。毎週水曜日、「講座」として鶏舞や獅子舞、お囃子の練習を行っているのは「永井地区郷土芸能伝承保存会」のみなさん。同会の結成は平成22年ですが、ルーツとなるのは4つの神楽団体（「杉則神楽」「内ノ目神楽」「白崖神楽」、その3つを統合した「永井神楽保存会」と、1つの獅子舞団体（「南中学校獅子舞保存会」）です。

時代の変化に伴う後継者不足、学校統廃合による会の解散等により地域からなくなりかけていた伝承芸能。それを救うような位置づけにある同会の、結成に至る経緯や活動への想いを会長の阿部良さんに伺いました。

青年たちが繋ぎなおした150年以上の歴史

22歳の時、地域内の3つの神楽団体が統合してできた「永井神楽保存会」の会員となった阿部さん。半ば強制的に加入させられたと言いますが、その翌年、地域内で発見された‘あるもの’によって、阿部さんは伝承芸能に主体的に関わるようになります。それは「文久3年」という染め抜きの入った‘獅子頭’でした。

長らく永井地域では途絶えていた獅子舞ですが、この大発見により当時の青年会永井連合会が動き出します。ちょうど若い世代の都会への流出が進みはじめ、残った若者たちが地元にも魅力を作り出そうと夜な夜な寝ずに検討するような時代、青年会の若者たちは獅子舞の復活プロジェクトを掲げ、「東永井獅子舞保存会」を結成しました。東永井地区の40軒に声をかけたところ、かつて獅子舞に太鼓や笛で参加していたという人が見つかり、指導を仰ぐことに成功。獅子舞は地域内の弥栄神社例祭にも奉納し、正月には各戸廻りをする程になりました。

さらに、当時の花泉南中学校から、学校で郷土芸能を学ぶ機会として獅子舞に取り組みたいという要請が。学校内にできた「南中学校獅子舞保存会」に対し、統合による中学校閉校までの約15年間、同保存会で指導を行ったのです。

‘広く浅く’で未来への種まき

阿部さんは「永井神楽保存会」としても昭和58年から小学校で生徒たちに鶏舞を指導しています。しかし、神楽そのものはメンバーの高齢化・後継者不足により踊ることがなくなり、阿部さん以外に踊れる人がいない状態になっていたことや、手作りの鶏舞の装束にも限界が見えてきたこともあり、助成金への応募を契機に会の在り方を見直すことに。中学校の統合により再び途絶えてしまっていた獅子舞（「東永井獅子舞保存会」は解散こそしていないものの、活動は休止状態）と、鶏舞を含めた永井神楽を後世へ伝承すべく「永井地区郷土芸能伝承保存会」を結成しました。

その後は毎年、講座形式で指導。1年単位の講座形式にする理由は「少数の人が長く続けるよりも、多くの人に鶏舞や獅子舞を経験してもらいたい。一度経験していれば、いつかまた取り組んだり、また存続の危機が訪れた時にも鶏舞や獅子舞に想いを馳せ、『やるべ！』と思ってくれるのではないか」という阿部さんの期待から。永井神楽に関しても「生きているうちに復活させたい」と語ってくれた阿部さんの静かにも熱い想いに応えるように、今年も25名の受講生たちが、熱心に鶏舞と獅子舞の講座に取り組んでいます。

講座の様子。阿部さんは唄と太鼓を担当しながらの指導です。



地域紹介



今年の研修旅行の写真
右端 自治会長 小山健一さん

～基本情報～

- ◆自治会長：小山健一さん（1期1年目）
- ◆藤沢町の中心部から南方に位置し、72世帯が暮らす第10区自治会。かつては葉たばこの栽培が盛んに行われていました。

みんなが楽しめる企画で顔の見える関係づくりを

総務、広報として支えてきた自治会活動

今年度から自治会長になった小山健一さん。「自治会長としては新人ですよ」と話されますが、長年総務として自治会の運営から自治会報の発行まで自治会活動を支えてきたベテランです。

総務時代には、平成23年に自治会の「35周年記念誌」の編集を担当。地域の歴史をまとめるだけでなく、地域の風景や各世帯の家族写真を集め、見て楽しい紙面づくりをしたり、これまで自治会活動の中心となってきた人達へのインタビュー記事をまとめるなど、10区の歴史を次の世代へ伝えるため尽力しました。

取材中、小山さんは記念誌をゆっくりとめくりながら、先代の方々のインタビュー記事の中から「祭りのない所に発展なし」という言葉を紹介してくれました。そして「何かをあてがわれて活動する時代は過ぎたと思う」と話す小山さんに、これまでの自治会活動を振り返りながら、最近の活動と今後の地域づくりについてお話を伺いました。

年代も行政区も関係なく集える場をつくる

これまで10区では、新年会での「男の料理教室」など、多世代で参加できる活動を続けてきました。平成21年に始めた「10区のまつり『てど』」は、地域の皆の「てど（手わざ）」を持ち寄ろうと、家庭で育てた野菜の販売やつり同好会による鮎のおふるまい、お年寄りが子どもに竹細工を教えたり、中学生が司会をしたり、みんなの交流の場として開催。3年後には同地区の9区、11区と合同による「本郷のまつり『てど』」に広がり、平成25年まで続きました。

「てど」を一旦休止しリニューアルを検討する中、昨年は同級生とアイデアを出し合い、毎年1月に開かれる藤沢町子ども郷土芸能発表会で本郷神楽を発表す

る子ども達やお世話人への^{ねぎら}の労いとして、同級生とアイデアを出し合って本郷地区自治会協議会でピザ窯をつくり、手作りピザをふるまいました。

地域と子どもの交わりをつくるために始めたピザづくりでしたが、最近では藤沢町内の行事からも声がかかるようになったそうで、今年の「縄文の炎・藤沢野焼祭」では、ピザの出店のため小山さんの呼びかけで「本郷ピザ同好会」を発足。地元企業からの資材提供なども受け、本郷地区に限らず若者も参加してくれて、祭りを盛り上げました。「来年はピザの材料を持ち寄ってトッピングコンテストとかみんなが楽しめる企画をしたい」と今後の展望も今から考えているそうです。

将来に備えた自治会運営

「てど」や「ピザ作り」など、小山さんが10区内にこだわらず、他の自治会や地区との連携に積極的なことの背景には地域の人口減少があります。

「単独自治会での活動には限界がきている。自治会や行政区を超えた地区単位での地域づくりへシフトする時期に入っているが、隣の自治会が何をやっているのかさえ意外とわからない。今後はお互いの活動や運営の工夫などを情報交換できる場も必要」と現在の自治会運営の課題を指摘する小山さん。続けて、「祭りの成功が目的ではないんだよね。誰でも参加できる活動を通して交流の機会を設けて顔の見える関係をつくりたい。それにより、災害時などいざという時にコミュニケーションを取れるようになるはず。体と頭が動くうちに次の世代へ財産をつくっておきたい」と地域のリーダーとして事業を行う視点を話されていました。



子ども達に喜ばれた
手作りのピザ窯

企業紹介



代表取締役 佐藤 誠さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：佐藤 誠さん
- ◆住所：〒029-0522
一関市大東町曾慶字砂子田 14-2
- ◆電話：0191-75-4414
- ◆FAX：0191-75-4462
- ◆URL：<http://www.yumekoumuten.com>

古民家は地域の宝 ～時代のニーズに合わせた家づくり～

住まいに関する、家族の夢をお手伝い

一関市大東町曾慶地区にある佐藤工夢店株式会社は、創業大正6年、今年で102年目を迎えました。

創業者は現代表取締役である佐藤誠さんの曾祖父で、二代目（祖父）は東磐井大工組合長や東磐職業訓練校校長などを歴任し、旧東磐井郡内の建築業界などの発展に尽力。三代目（父）が、平成22年に工務店を法人化し、それをきっかけに“佐藤工務店”から、“佐藤工夢店株式会社”と社名を改めました。

「家を建てるというのは、一生に一度の大決心かと思えます。住まいに関する家族みんなの『夢』を叶えてあげたい。そんな思いを込めて、工務の字を当て文字にしたようです」と語るのは、四代目代表取締役の佐藤誠さんです。

三代目の意思を受け継ぎ新たな挑戦へ

同社が手掛けている住宅建築事業は、古民家再生と高性能住宅の2つを大きなテーマとしています。三代目を取り入れ継続してきた古民家再生事業では、これまで長く暮らしてきた家族の思い出の家を取り壊すことなくリノベーション（修復・再生）し、時代のニーズに合わせた家づくり、高性能住宅事業では、四代目が新たに取り入れた、四季がはっきりとしている東北だからこそ提案したい、ヨーロッパ並みの断熱を駆使した快適性能を本気で追求した家づくりです。

一関市、中でも旧東磐井郡内には何世代にも受け継がれた古民家が多く点在していますが、「家族の人数が減りニーズに合わない」「高齢化が進み管理が難しい」「後継者がいないため空き家になっている」などの課題と向き合っているのが現状です。佐藤さんは「古民家は、太い素材を使用しており、100年も200年も世代を超えて家族が住み続けられるようにと建てた人の思いがこもった家です。その思いや価値に気づけないのはもったいない。家族の形に合わせて新しい家を建

てる前に、今一度『暮らし』と『家づくり』を考えていただき里山を望める暮らし、一関らしい暮らしのご提案をさせていただいています」と語り、「古民家リノベーションにはいくつかの手法（減築や家の中に家を造るなど）があり、外観はそのままお客様の住み方に合わせ、自由にプランニングすることもでき、新築に比べて費用を抑えられるというメリットもあります」と続けます。

高性能住宅事業では、佐藤さん自ら「岩手Dotプロジェクト（資源と住まいづくりの快適性能などを考える団体）」に運営委員として携わり、実際にヨーロッパへ渡り、性能や技術を学びその手法を実際の建築（古民家のリノベーションにも対応）に活かし、住まいにおけるアフターサポート（定期点検やメンテナンス）も行っています。

反響に驚き！初の古民家ツアー

同社は初企画した「古民家ツアー」を、今年10月28日に開催しました。急速に増えている空き家の利活用の啓蒙も目的に、これまで同社がリノベーションした古民家の中から6か所をめぐり、昼食と住まいに関する勉強会を兼ねた企画です。バス1台の関係から定員26名としたところ、チラシ配布翌日にはその倍の申し込みがあり「『こんなにも関心があるんだ』と従業員も驚くほどだった」そう佐藤さんは振り返り、「古民家の良さを知ってもらえるような活動を通して少しでも空き家減少に繋がれば」と続けます。

古民家ツアーは今後も継続する方向で、「早ければ来年春ころ2回目の開催をしたい」と次回への意欲を見せていました。



せっかくのお宝がもったいない！
ステキな雰囲気はそのままに、快適な暮らしを。

センターの ○○!



『大部ヶ岩の上から見える絶景』

某スタッフの「地域を回っている時に大きな石“巨石”を見かけた」という話題提供をきっかけに、市内の巨石について独自調査をスタート！果たしてどこにどんな巨石があるのか？そして、並み居る巨石たちの上に君臨する市内最大の巨石とは！？

「餅は餅屋」と言いますが「巨石は巨石屋」という訳にもいかず、まずは「巨石情報を持っていそうな人探し」を開始。最終的に一関市博物館副館長の相馬美貴子さんに辿り着き、ご厚意で市内の巨石についてお話を伺うことができました。

相馬さんによると、一関市博物館では平成26～29年度に『史跡めぐりー磐井の石めぐり』という、市内に点在する巨石、石造物を巡るツアーを一般の方を対象に開催。多くの方々の参加があり、好評を博したそうです（一関博物館は当センターの5年先を走っていた!!）。そのツアーでは主に江戸時代に仙台藩が記した風土記を基に、地域に現存する巨石を巡ったとのことで、今回はその時の資料をベースに追加調査を加え独自の巨石（高さ）ランキングを作成してみました！

他にも、猿沢の金華山碑（深く刻された字画の中に頭を入れてから祈願すると頭が良くなると言われている）の話など、プチ情報も提供いただきましたが、その相馬さんもお薦めのインパクト抜群の巨石は次号でご紹介します。お楽しみに！

※＜参考文献＞

平成26～29年度「史跡めぐりー磐井の石めぐり」一関市博物館

1位の大部ヶ岩に行ってみました！！

早速見事1位に輝いた『大部ヶ岩』に行ってみることに。近くまで歩いていき「あそこが頂上だよ」と言われて見上げると…、完全に石の範疇を超えた絶壁が。それでも何とか辿り着いた先には北上川と遊水池の絶景が待っていました。



ランキング1位に輝いた『大部ヶ岩』辿りついた先にはまるで火○サスペンスのような絶壁が！



絶壁の限界に挑む1人の勇者。だが思わず固まってしまう場面も…（良い子は真似しないでね）

～巨石ランキングトップ10～

順位	名称	地域	高さ
1位	だいぶいわ 大部ヶ岩	舞川	48.5m
2位	たていしんじや 立石神社	藤沢町	17m
3位	びょうぶいし 屏風石(室根)	室根町	9m
4位	みかけ石	舞川	6m
5位	めおといわ 夫婦石	千厩町	5m
6位	げっこうし 月光石	舞川	3.5m
7位	つづきいしんじや 続石神社	大東町	3.3m
8位	まさげんいし 正現石 じゅうぼこいし 重箱石	舞川 千厩町	3m
9位	びょうぶいし 屏風石(舞川) かごいし 籠石	舞川	2.7m
10位	なべいし 鍋石 ためしいし 様石	千厩町 舞川	2.4m

※今回は巨石の「高さ」をランキングで表しています。
※同所に複数の石がある場合、最も高いものを掲載しています。

※石・岩・碑など巨石と言っても様々あります。今回は独自の解釈によるランキングですので、あらかじめご了承ください。

また、市内には巨石がまだまだ存在するかもしれません。ぜひ、皆さんの地域にある巨石情報をセンターまでご提供ください。

おしらせ

企画展

一関市民俗資料館 開館記念企画展
「神様だった猫」

主催：一関市民俗資料館

川崎町にある銚子浪分神社には、養蚕の成功を祈る猫の絵馬が数多く奉納されています。絵馬は岩手県立博物館にも所蔵されていますが、今回はそのうちの8点が里帰り。計10点を展示し、猫が神様だった頃の人々の祈りの気持ちを紹介します。

【期間】平成30年11月1日(木)～平成31年1月31日(木)

【場所】一関市民俗資料館(大東町渡民字小林25)

【入館料】無料

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

【問合せ】0191-75-2706(渡民市民センター)

募集

「館ヶ森ごっつおマラソン」
ボランティア募集

いちのせき市民活動スタッフバンク「イマカラ」

平成31年2月3日開催の「館ヶ森ごっつおマラソン」(エコール館ヶ森様主催)で、大会に参加するマラソン選手の誘導やその他お手伝いをしてくれるボランティアを募集しています。※応募には、イマカラへのスタッフ登録(無料)が必要です。

【募集締切】平成31年1月7日(月)

【場所】館ヶ森高原ホテル

【定員】10名(性別・年齢の指定はございません)

【報償】なし ※当日は昼食の提供がございます。

【問合せ】0191-48-3735(いちのせき市民活動センター)

相談会

縁結び支援員による結婚相談会

主催：いちのせき結婚活動サポートセンター

縁結び支援員があなたの結婚をお手伝いします。結婚を希望する独身の方(家族の方)を対象に、縁結び支援員が直接お話しを伺い、お相手の方を紹介させていただきます。秘密や個人情報はお守りされますので、素直な気持ちをお聞かせください。※ふさわしい相手が見つからない場合はご紹介できないこともございます。

【日時】平成30年12月9日(日)9時30分～

【場所】なのはなプラザ3F 一関市民センター

【料金】無料

【問合せ】0191-21-8852

(いちのせき市役所 いかがいづくり課)

講演会

奥玉地区 福祉講演会
「思いのままに駆け抜けて」

主催：奥玉地区福祉活動推進協議会

大船渡生まれの鈴木勝良さんは5歳の時に事故で両足を失いましたが、今では遠泳・チェアスキー・シーカヤック・車椅子用パラグライダーで単独飛行を行うなど挑戦を続けています。

何が彼をそこまで駆り立てるのか、お話しさせていただきます。

【日時】平成30年12月9日(日)13時30分～

【場所】千厩維新館(千厩町奥玉字中日向232-2)

【参加料】無料

【問合せ】0191-56-2950(奥玉市民センター)

発表会

地域共生社会シンポジウム
～いつかあたりまえになることを～

主催：株式会社ツクイ

4つの福祉事業所と行政による活動発表や、「死と看取りと意思決定支援」を演題にした谷藤内科の院長先生による講演、認知症に関する劇の公演などにより、さまざまなハンディキャップをもちながら地域で共生することを皆で考えるシンポジウムです。どなたでもご参加できます。

【日時】平成30年12月9日(日)13時～16時

【場所】一関文化センター中ホール

【入場料】無料

【問合せ】0191-31-6887

サロン

いこいカフェ

主催：NPO法人ケアセンターいこい

認知症を広く正しく知っていただくために、また、認知症の方や介護をしている方が悩みや不安を一緒に考えたりする場として「いこいカフェ」を毎月開催しています。何でも話せる息抜きの場として、情報交換の場として、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

【日時】平成30年12月12日(水)10時～12時

【場所】ケアセンターいこい(一関市地主町2-26)

【内容】大型紙芝居上演会『笑う健康法』『民話』

【参加申込】不要

【参加料】200円(お茶・お菓子代)

【問合せ】0191-31-1514

演奏会

第14回いちのせき第九演奏会

主催：いちのせき第九演奏会実行委員会

ベートーヴェン作曲の「交響曲第9番二短調作品125」の演奏会です。岩村力さん指揮のもと、仙台フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラといちのせき第九合唱団の歌声が美しく響き合う感動のステージ。クラシックの名曲の世界をご堪能ください。

【日時】平成30年12月16日(日)

開場13時15分 開演14時

【場所】一関文化センター大ホール

【入場料】一般3,500円、小中高生1,000円

【問合せ】0191-21-2121(一関文化センター)

募集

保護猫の譲渡会

主催：ちいさな命をまもり隊

保護猫15匹ほどの里親さんを募集します。春生まれの子猫達は体が十分に成長した子から避妊去勢手術をして参加します。里親さんの費用負担はありません。室内飼いで「家族」として大切に飼ってくださる方をお待ちしています！

当日は、猫について皆で考え話し合う「地域猫サロン」も開催します。

【日時】平成30年12月22日(土)13時～15時

【場所】蔵のひろば(一関市田村町8-12)

【問合せ】090-7061-7786(佐藤)

イベント

第12回全国わんこもち大会

主催：全国わんこもち大会実行委員会

一関の餅文化をユニークに発信する、岩手名物「わんこそば」ならぬ「わんこもち」！2人1組、または個人でエントリーし、5分で何個のもちを食べられるかを競います。年齢制限はありません。皆さまのご参加お待ちしております。

【日時】平成31年2月3日(日)競技10時～

【場所】一関保健センター

【参加料】団体戦(2人1組)2,000円

男性・女性個人戦 各1,000円

※入場は無料です

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター内)

今月の表紙



今月の表紙は、川崎町字古館にある一関市指定史跡「薄衣城跡」の本丸があった場所の写真です。薄衣城は葛西氏の家臣だった千葉四郎胤堅(たねかた)によって、建長5年(1253年)に築かれ、その後千葉氏は天正18年(1590年)に豊臣秀吉による奥州仕置で葛西氏が滅亡するまで当地方を治めていたとされています。参考：「薄衣系図」

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPO法人になると法人税がかかるって聞いたけど、どれくらいかかるの？

A NPO法人が行う「特定非営利活動に係る事業」のうち、法人税法上の収益事業(請負業、出版業などの34事業)に該当する場合は課税対象になります。課税金額は、年間所得額が800万円を超えるか、それ以下かにより異なります。800万円を超える場合は、収益事業の所得に対して25.5%、800万円以下の場合は、収益事業の所得に対して15%が課税されます。

